

第三章 研究開発の経緯と内容

A スーパーサイエンスハイスクール国際交流事業

(1) 研究開発の課題（研究概要）

本校は英語によるコミュニケーション能力や異文化理解、国際的な取組への興味・関心の向上を目指して国際交流事業に取り組んできた。その中心となる取組が平成25年度より開始した英国パブリックスクール Radley College との国際交流である。

(2) 研究開発の経緯

Radley College との国際交流では、3月には1週間の日程で本校の生徒8名と教員2名が Radley College を訪問する。その際、Radley College にて化学、物理などサイエンスの授業を中心に参加し、実験・探究・プレゼンテーションを重視した授業を体験する。各派遣生徒は自身が行った課題研究の成果を英語でプレゼンテーションし、現地の生徒と意見を交換する。

本年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大のため、国際交流を中止しオンラインを活用した下記のプログラムを実施した。

(3) 研究開発

A ねらい

イギリスとのオンライン交流は時差が大きいことから難しく、新たに台湾の高校とのオンライン交流会を企画した。英語による文化交流や課題研究発表などを行い、深い議論をすることでアジアの生徒たちの考え方を理解することがねらいである。自らの英語力を使って、英語を母国語としない人たちと情報を共有できるよう、コミュニケーション能力を身につけることを目指して行う。

イ 内容

通信機器を利用し1、2年生の希望者を対象に実施する。

対象となる学校の概要と方法は以下のとおりである。

交流校 Banqiao Senior High School 板橋高級中學（台湾）

理数科を有する台湾新北市のトップ校である。授業で課題研究に取り組んでいる理数科の生徒との交流を計画している。両国の生徒がそれぞれ4件ずつ課題研究の発表をした。

対象生徒 本校1、2年

実施日 令和3年 6月11日、7月16日

実施方法 会議アプリ Zoom を使用した。



発表の様子

ウ 検証（成果と反省）

生徒の感想より

- ・拙い英語であったが板橋高校との交流を楽しむことができました。
- ・音が聞きづらいことが多くて大変だった。
- ・コロナ禍の中でも、非常に有意義で国際的な交流をすることが出来ると実感した。言語の壁は厚く、発表された研究を完全に理解することは出来なかったが、発表のために準備し、相手校の方々との積極的なコミュニケーションに努めた経験は将来に生かされると思う。

アンケートを実施し、多くの生徒は交流によって相手の発表への理解が深まったと述べている一方で、感想の記述にあるように通信におけるハード面ではまだ課題が残る。オンラインでの発表に不慣れなこともあり、相手の発言が聞きづらかったり、あるいは相手の英語が理解できなかつたりということが見られた。